国立国語研究所学術情報リポジトリ

沖縄語久米島謝名堂方言の疑問文の形

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-11-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: ファン・デル・ルベ, ハイス メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002453

沖縄語久米島謝名堂方言の疑問文の形

ハイス・ファン・デル・ルベ*

はじめに

本稿では，沖縄語久米島謝名堂方言の疑問文の形を考察し，疑問専用形式のみならず，あらゆる疑問文の形を記述することにする。

1　対象言語

謝名堂方言は，北琉球諸語に属する沖縄語の下位方言である。話者の内省によると，沖縄語を代表する首里方言との相違理解度が高いとのことであるが，疑問文の形をはじめ謝名堂方言と首里方言には，さまざまな相違点がある。

謝名堂は，旧中里村に属する集落である。沖縄でよく用いられる，いわゆる二村併称では，隣の泊集落とひっくるめて tumai-jararo:「泊・謝名堂」と言われ，1 つの単位としてあつかわれる。泊と謝名堂の間には，言語差がなく，1 つのことばになっているが，西に隣接する比嘉（沖縄語名 dʒa:mu）のことばと東に隣接する 宇根（沖縄語名 utʃamu）のことばは，泊・謝名堂方言とことなると言われている。本発表では，当該方言のことを謝名堂方言とよぶことにする。

2　調査方法

2011 年 8 月と 2015 年 12 月に録音した役 3 時間の自然談話のコーパスに出た疑問文を分析し，聞き取り調査で謝名堂方言の母語話者である KM 氏（女 1936 年生）と MI（男 1947 年生）に確認し，不明なところを教えてもらった。自然談話の話者は，上に述べた 2 人以外，YS（女 1932 年生），YS（女 1942 年生）, TY（女 1929 年生），KY（女 1922 年生-†2013）, KS（男 1933 年生）である。

自然談話では，2 人の話者が同時に発話し，その発話が重なっているところが多い。本研究では，沖縄語泊・謝名堂方言における疑問をあらわす形式とその用法の記述を目的としているため，読者の理解を容易にするために 2 人の話者の発話が重なっているところをそのまま用例にするよりは，文と談話の構造を守りながらなおすことにした。なおしたところに関しては，話者に確認をとっている。

現在，沖縄語話者の発話に日本語とのコードスィッチが多い。コーパスの談話にもコードスィッチが多いが，用例としては，できる限りコードスィッチがないところを使用した。社会言語学的な観点からは，日本語へのコードスィッチが非常に興味深いものであるとは，認識しているが，本稿は，沖縄語泊・謝名堂の全体的の記述を目的とするものであるため，語彙のコードスィッチのばあい，日本語の語彙を容易に沖縄語の語彙におきかえることが可能なばあいに話者と確認しながら沖縄語の語彙を入れた。

＊　浦添市浦添小学校英語指導助手

３　疑問文

日本語記述文法研究会（2003）によれば，疑問の定義は，次のとおりである。

疑問は，その命題に対して話し手の判断がなりたたないことをあらわす。疑問の中心的な機能は，質問である。典型的な質問には，①話し手に不明な情報があるため判断がなりたたず，②聞き手に問いかけることによって疑問の解消をめざすという 2 つの基本的性質がある。質問の 2 つの基本性質のうち，①を欠くのが確認要求の疑問文であり，②を欠くのが疑いの疑問文である。確認要求の疑問文や，疑いの疑問文のほかにも，質問を行う時点での話し手の見込みや，状況や文脈との関係，あるいは情報の得られ方などから疑問文にはさまざまな大部が存在する。

一番典型的な疑問文は，①と②という特徴を両方もち，聞き手から情報を引き出すことを目的とする。

上に述べた 2 つの性質の中の 1 つが欠けている疑問文もある。たとえば，確認要求の疑問文は，話し手の判断がなりたっていないという性質が欠けており，疑いの疑問文は，聞き手に問いかけるという性質が欠けている。

疑問文が疑問終助詞によってマークされる点は，北琉球語群に属している言語変種の中で広く見られる特徴である（ファン・デル・ルベ 2016）。

「疑問文は，話し手にとって何が不明なのかという観点から，真偽疑問文（＝肯否疑問文，yes-no question/polar question），選択疑問文（alternative question），補充疑問分（疑問詞疑問文，wh-question/content question）の 3 のタイプにわけられる。

確認要求や疑いは，疑問たらしめる 2 つの性質の中の 1 つを欠いているが，疑問には，属する。修辞疑問は，特徴①を欠いているが，②聞き手に問いかけることによって疑問の解消をめざすという意味では，「聞き手に問いかける」という性質を持っているため，ここで記述することにする。

表１　沖縄語語久米島謝名堂方言のさまざまの疑問文の’疑問らしさ’。

	条件①	条件②
肯否疑問	○	○
選択肢疑問	○	○
疑問詞疑問	○	○
確認要求の疑問	×	○
疑いの疑問	○	△
問い返し疑問	△	○
修辞疑問	×	×

本稿では，沖縄語久米島謝名堂方言における疑問文にあらわれるあらゆる形の形態論的な特徴と用法の特徴を考察する。

4　na

naは，肯否疑問をあらわす疑問助詞である。naによる肯否疑問は，①話し手に不明な情報があるため判断がなりたたず，②聞き手に問いかけることによって疑問の解消をめざすという 2 つの疑問たらしめる特徴をもつ。

naは，あらゆる品詞につく。この肯否疑問のマーカーnaは，用法の差があっても琉球諸語にあまねくみられる疑問助詞である。

動詞・第 1 形容詞・コピュラにつくばあい，次のとおりになっている。

表 2　肯定形の肯否疑問形

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
する	suN	suN=na	tʃaN	tʃi=na
来る	tsuN	tsuN=na	tʃaN	tʃi=na
買う	ko:juN	ko:juN=na	ko:taN	ko:ti=na
起きる	ukijuN	ukijuN=na	ukitaN	ukiti=na
飲む	numiN	numiN=na	nuraN	nu:ri=na
高い	takahaN	takahaN=na	takaha:taN	takaha:ti=na
コピュラ１	re:ru	reN=na	re:taru	re:ti=na
コピュラ２	jaN/jeN	jaN=na/jeN=na	jataN/je:taN	jati=na/je:ti=na

表 3　否定形の肯否疑問形

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
しない	saN	saN=na	sana:taN	sana:ti=na
来ない	kuN	kuN=na	ku:na:taN	ku:na:ti=na
買わない	ko:raN	ko:raN=na	ko:rana:taN	ko:rana:ti=na
起きない	ukiraN	ukiraN=na	ukirana:taN	ukirana:ti=na
飲まない	numaN	numaN=na	numana:taN	numana:ti=na
高くない	takaku neN	takaku neN=na	takaku ne:na:taN	takaku ne:na:ti=na
でない	araN	araN=na	arana:taN	arana:ti=na

次の用例では，AはBに夜に怖くないかを問いかけている。Bは，回答せずに問い返している。

1. A:　juro:　uturuko: neN=na?
　　夜は　怖くないのか？
　B:　juru=na:?
　　夜？

次の用例では，AはBに水を飲むかどうかを問いかけている。

2. A: midʒi numiN=na?
水を飲むか？
B: i:-i:. hi:sanu. wano: ju:gwa=ru maʃi jaru
いいえ。寒いよ。私は お湯のほうが まし だ。

次の用例で示しているように，話し手が聞き手のために行おうとしている行為を聞き手が受け入れるかどうかを問うばあいにも na が用いられる。このばあい，na は動詞の非過去形につく。次の用例は，まず A が B と C にコーヒーをすすめて，B と C が受け入れるかどうかを問いかけている。次に，B と C が A の提案を受け入れるかどうか話している。B は「コーヒーを飲みたいか」と C に問う代わりに，Ndʒi を使い，A の提案を受け入れるかどうか C に問いかけている。

3. A: <ko:hi:> irijuN=na?
コーヒーを入れようか？
B: Ndʒi?
どうする？
C: ɸu:sa:biN =ja:
ほしいですね。

上の表 3 で示しているように，過去の肯否疑問のばあいは，na が日本語のテ中止形に相当する-ti 中止形につく。沖縄語においては，テ中止形に相当する形式がかつて過去形をあらわしていた（かりまた 2015：66）。疑問助詞が-ti 中止形につく現象が沖永良部語正名方言（ファン・デル・ルベ 2016：182）をはじめ北琉球語群であまねく見られる。

次の用例は，A と B が一緒に野菜炒めを食べいているときの会話である。A は，B がパッパヤを洗ってから炒めたかどうかを問いかけている。動詞 iritsuN「炒める」の-ti 中止形 iritʃi に na がついている。

4. A: <pappaja:> arati=kara iritʃi=na?
パッパヤは，洗ってから炒めたか？
B: iN
うん。

次の用例では，A がどこを旅行したか覚えていないと言ったときに，B が A に台北に行ったかどうかを問いかけており，動詞 itsuN「行く」の-ti 中止形 Ndʒi に na がつく。

5. A: nu:=N ubiraN =jo:.
何も覚えないよ。
wanu <rjoko:> ʃimitaNte: <katʃi> ne:higa...
私を旅行させても価値がないが…
B: Nma... <taipei> Ndʒi=na?
そこ台湾，行ったか？

A:　hira![2]
知らない！

疑問のフォーカスが述語以外の構成素であるばあい，フォーカス助詞（焦点化助詞）ru が用いられる。

次の用例では，A は，B が久米島に来ていることを知っていて，船で来たかどうかを問いかけている。「船で」ということが疑問のフォーカスであるため，そこに ru がついている。

6. A:　ɸuni=kara=ru　kumidʒima=katʃi　tʃi=na?
船で久米島に来たのか？
B:　iN.
うん。

名詞述語や第 2 形容詞述語でフォーカス助詞 ru が述語につき，コピュラの jaN・jeN の前にあらわれれば，次のように融合がおこる。

kuri=ru　jaN=na?（これなのか）→　kuri reN=na?
kuri=ru　jeN=na?（これなのか）↗

dʒo:dʒi=ru jaN=na?（上手なのか）→　dʒo:dʒi reN=na?
dʒo:dʒi=ru jeN=na?（上手なのか）↗

動詞述語が取り立てるような重いフォーカスを受けるとき，動詞にもフォーカス助詞 ru がつく。もとは，助詞 ru が動詞のいわゆる連用形につき（古パターン），動詞 suN「する」にテンス・マーキングがあらわれ，na も suN の形につくが，最近は，助詞 ru が非過去形の尾略形につくパターン（新パターン）に移行しつつあるようである。非過去形が -biN，-miN，-niN で終わる動詞は，連用形と尾略形が同音形式であり，この変容がこのような動詞から始まったと考えられる。次の表では，動詞述語が ru によるフォーカスを受ける 2 つのパターンを示している。

表 4　動詞に助詞 ru のつき方

	非過去形	古パターン	新パターン
買う	ko:juN	ko:i=ru suN=na	ko:ju=ru suN=na
起きる	ukijuN	uki=ru suN=na	ukiju=ru suN=na
飲む	numiN	numi=ru suN=na	numi=ru suN=na

次の用例では，A が，祭りがおこなわれている場所に行き，そこでその場所から離れようとする B に会った上での会話である。A が B に時間がまだ早いのに，もう少し残るのではなく帰るのかを問いかけている。動詞 ke:juN「帰る」が助詞 ru によるフォーカスを新パターンで受けている。

7. A:　e?!　ke:ju=ru suN=na?
え？！帰るのか？

2　hira は，回答できないばあいに用いられる感嘆詞である。

B: nama=kara wi:kata=katʃi.
(うん) 今からウィーカタ[3]へ。

次の用例では，A が B に，B が味噌を作ったのか買ったのかを問いかけている。作ることと買うことを取り立てているため，動詞が新パターンによるフォーカスを受けており，テンス・マーキングが suN「する」にあらわれる。過去の肯否疑問であるため，疑問助詞 na が過去形の tʃaN「した」よりは，-ti 中止形の tʃi についている。

8. A: uri miso: ko:ju=ru tʃi=na?
その味噌は，買ったのか？
B: ko:ju=ru tʃaru! tsukujunu hima: ne:nu muN
買ったんだよ！作る暇がないんだもん。

継続相をあらわす-toN 形（～テオリ相当）やパーフェクト・結果相をあらわす-teN 形（～テアリ相当）をとった動詞述語が ru によるフォーカスを受けるばあい，これらの形の分析的な形式としての起源になる形が見えてくる。次の表のとおりである。

表 5　動詞 tsuku juN の-toN 形と-teN 形のフォーカスを受けた肯否疑問形。

	肯否疑問形	フォーカス肯否疑問形
-toN 形	tsukutoN=na	tsukuti=ru uN=na
-teN 形	tsukuteN=na	tsukuti=ru aN=na

次の用例では，A が B にお菓子を買ったのかを問いかけている。～テアリ相当形式をとった述語が助詞 ru によるフォーカスを受けており，分析的な形が見えてきている。

9. A: uri kwa:se: ko:ti=ru aN=na?
そのお菓子は，買ったのか？
B: araN! tsukuti=ru aN=ro:
ちがう。作ったんだよ。

次の用例では，A が，隣の部屋にいる B に寝ているかどうかを問いかけている。「寝ている」は，当該方言でテオリ相当形式の niNtoN であるが，術後が ru によるフォーカスを受けているため，分析的な形としてあらわれている。

10. A: niNti=ru uN=na?
寝ているのか？
B: nu:=he:?
何？

3　wi:kata は，字比屋定とその周辺地域をさし，日本語対訳では，言い方をそのままカタカナにした。

否定形をとった動詞述語が助詞 ru によるフォーカスを受けるばあい，ru が直接否定形につき，無情物存在動詞 aN にテンス・マーキングがあらわれる。次の用例では，否定形をとった述語が ru によるフォーカスを受けている。

11. A:　kwa:se: na: neN=ru aN=na?
　　お菓子は，もうないのか？
　B:　Nma=ni a:nu hadʒi
　　そこにあるはずだ。

第 1 形容詞が述語になる文で疑問のフォーカスが述語であるばあい，フォーカス助詞 ru が第 1 形容詞の連用形につき，テンス・マーキングが無情物存在動詞 aN「ある」にあらわれる。

表 6　フォーカス助詞 ru によるフォーカスを受ける第 1 形容詞。

	非過去形	肯否疑問形	フォーカス肯否疑問形
おいしい	ma:haN	ma:haN=na	ma:ha=ru aN=na
多い	uɸusaN	uɸusaN=na	uɸusa=ru aN=na
安い	jassaN	jassaN=na	jassa=ru aN=na

次の用例では，A が B に米国でドッグフードを食べてしまったことがあるという逸話を話している。そこで，B が A においしかったかどうかを問いかけている。形容詞述語が ru によるフォーカスを受けており，ru が連用形につき，無情物存在動詞 aN が過去形の疑問形である a:ti=na（-ti 中止形＋na）をとった。

12. A:　uri　<kaNdzume>　akiti,　kare:tsutakutu,
　　その缶詰を開けて，食べていたら，
　　ja:nu　warabiNtʃa:=ga　ke:ti　tʃi,
　　家の子供たちが帰ってきて，
　　"e!　ure:　iNgwa:=nu　kamihi　reN=ro:!
　　「え！それは，犬の食べるものだよ！
　　<dogguɸu:do>　reN=ro:"　=tʃo:taN
　　ドッグフードだよ」と言っていた。
　B:　hahaha!　ma:ha=ru　a:ti=na?
　　ハハハ！おいしかったのか？
　A:　ma:ko:　ne:na:tahiga,　tsuha:ra　warataN
　　おいしくはなかったけど，十分笑った。

na は，選択肢疑問文にも用いられる。選択肢疑問文においては，2 つ以上の選択肢がとりたてられる。とりたてられる構成素が助詞 ru によってマークされる。

次の用例では，A が B にお菓子を食べるのか，それともパンを食べるのかを問いかけている。とりたてられるお菓子とパンに ru がついている。

13. A: kwa:ʃi:=ru kamiN=na? paN=ru kamiN=na?
お菓子を食べるのか？それとも，パンを食べるのか？
B: kwa:ʃi=ru maʒi
お菓子がいい。

次の用例も選択肢疑問である。A が B に味噌を買ったのか，それとも作ったのかを問いかけている。

14. A: uri miso: tsukui=ru tʃi=na? ko:i=ru tʃi=na?
その味噌は，作ったのか？それとも買ったのか？
B: tsukui=ru tʃaN=ro:
作ったんだよ。

5 na:

na:は，崎原（2015）の主張では，同じ沖縄語に属する首里方言で「場面や文脈上，話し手側に事態や出来事に対する何らかの判断や想定のようなものが存在していて，na:の文は，その判断か想定正しいのかどうか確認する」用法がある。泊・謝名堂方言の na:もその用法があると考えられる。

問い返し疑問にも用いられる。後述する he:も問い返し疑問に用いられるが，na:が問い返し疑問に用いられるばあいは，意外性（mirativity）がより強いと思われる。

この na:は，上に述べた na と形態論的にことなる助詞である。過去形をとった動詞・形容詞・コピュラにつくばあい，-ti 中止形ではなく，-taN 形につく。

ukitaN「おきた」→ ukitaN=na:

次の用例では，A が B に第三者から聞いた話をしている。その話の内容は，B がもう 2 人と話をしていた時，日本語を一言せずに，純粋な沖縄語を使っていたということである。そこで，B がそれを意外と思い，本当に自分のことなのかを na:で問い返している。

15. A: jaru:, e:=ja:, Ndʒi?
あなた，ね，ほんと？
hanako=tu, kumiko=tu mittʃai je:ne:,
花子と久美子と 3 人だったら
jaru: nu:=N jamatugutʃi sanoi,
あなた，何も日本語を使わないで
muttu utʃina:gutʃi =tʃoN
全部沖縄語だって。
B: waN=na:?
私？
A: iN
うん

次の用例では，A が家に帰って，買い物が多くおいてあるのを発見し，B が買い物をしたことに気づいた上で「もう買い物したのか？」と問いかけている。買い物をしたことがすでに分かっており，A がすでに買い物したのが意外であることの表現である。

16. A:　na: ko:imuN tʃaN=na:?
　　もう買い物をしたのか？
　B:　iN. ha:ku ukiti...
　　うん。早くおきて…

次の用例では，A が味噌を作り，B にあげると，B が味噌を作ったのかを問いかけている。味噌をよく作る A であるため作ったかどうかが分からないわけではないが，その日に A が味噌を作ったことを以外であると思って問いかけている。

17. A:　ju:! Nma utʃeN=ro:
　　はい！そこ，おいたよ。
　B:　nu: tʃoN=he:?
　　何て？
　A:　misu.
　　味噌。
　B:　misu tsukutaN=na:?
　　味噌を作ったのか？
　　haNma:! re:dʒi re:ru!
　　あらまあ！大変だ！

6　-mi・-ni・-ti:・i

-mi・-ni・-ti:・i は，肯否疑問をあらわす。以下，これらの形式を-mi 形と呼ぶことにする。かつて肯否疑問助詞 i があり，肯定形の終止形と融合して-mi ができ，否定形の終止形と融合して-ni ができたと考えられる[4]。

現代沖縄語泊・謝名堂方言では，動詞・第 1 形容詞・コピュラの肯定形がばあい，-mi としてあらわれる。過去のばあいは，-ti:としてあらわれ，これは，-ti 中止形に i がついた結果であると思われる。

4　かりまた（2015：65-66）も指摘しているように，肯定非過去形の肯否疑問形-mi は，かつて存在していた-mu 終止形と i の融合に由来する。否定非過去形の肯否疑問形-ni は，かつて存在していた否定終止形-nu と i の融合した形であると考えられる。過去形の肯否疑問形-ti:は，かつて過去形として用いられた-ti 中止形に i がついた結果であると思われる。

表 7　-mi 形の肯定形の肯否疑問形。

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
する	suN	sumi	tʃaN	tʃi:
来る	tsuN	tsu:mi	tʃaN	tʃi:
買う	ko:juN	ko:jumi	ko:taN	ko:ti:
起きる	ukijuN	ukijumi	ukitaN	ukiti:
飲む	numiN	numimi	nuraN	nu:ri:
高い	takahaN	takaha:mi	takaha:taN	takaha:ti:
コピュラ１	re:ru	re:mi	re:taru	re:ti:
コピュラ２	jaN/jeN	jami/je:mi	jataN/je:taN	jati:/je:ti:

否定形の非過去形が-mi 形をとるばあいは，-ni としてあらわれる。

表 8　否定形の肯否疑問形。

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
しない	saN	sani	sana:taN	sana:ti:
来ない	kuN	ku:ni	ku:na:taN	ku:na:ti:
買わない	ko:raN	ko:rani	ko:rana:taN	ko:rana:ti:
起きない	ukiraN	ukirani	ukirana:taN	ukirana:ti:
飲まない	numaN	numani	numana:taN	numana:ti:
高くない	takaku neN	takaku ne:ni	takaku ne:na:taN	takaku ne:na:ti:
でない	araN	arani	arana:taN	arana:ti:

沖縄語首里方言（崎原 2015）とことなり，i がそのまま名詞述語文や第 2 形容詞が述語になる文につかず，コピュラの-mi 形である re:mi がつく。

18. ja:=ja ʃimaNtsu re:mi?
　お前は，島の人か？

平叙文においてフォーカス助詞 ru があらわれるばあい，述語になる動詞か第 1 形容詞，または，コピュラが-ru で終わる強調形をとる。このような文が-mi 形をとるばあい，強調形-ru の後ろに i がつくこともあり，-mi をとることもある。

19. a.　umusa=ru a:rui?
　面白いのか？
　b.　umusa=ru a:mi?
　面白いのか？

崎原（2015）によると，沖縄語首里方言でも，-mi 系の疑問形が存在するが，「話し手は，命題の真偽についてまったく判断がつかないため，聞き手から情報を引き出す以外に情報を得るすべがな

い」という点では，首里方言の-mi 系の疑問形の用法が泊・謝名堂方言の na 疑問形と似ている。泊・謝名堂方言では，-mi 系による疑問文は，話し手が聞き手にきつく問いただす意味合いでしか用いられない。話し手に不明な点もなく，聞き手に回答も求めない，非難的な修辞疑問という用法でも用いられる。話者の内省によると，ほとんど怒りの表現として相手を見下げいているニュアンスでしか用いられないため，敬語形式と共起は，不可能であるとのことである。

次の用例は，A が学校の教師で生徒の B を叱っている場面である。B が叱られていても笑っているため，A が怒りながら問いかけている。ここでは，A が問いかけにより B に回答を求めているわけではない。

20. A:　Nga warate:tsuru?!　umusa=ru a:mi?
なんで笑っているか？！面白いのか？
B:　<sumimaseN>
すみません。

次の用例では，A が自分の家の前の庭にある花が踏まれていることを見つけ，そこでうろうろしている子供の B が花を踏んだに違いないと A が思った上での会話である。A が suN「する」の-mi 形の過去形 tʃi:で B に問いかけている。

21. A:　kure: ja:=ga=ru tʃi:?
これは，お前がやったのか？
B:　aibiraN
違います。

次の用例では，親である A が，子供である B が行くかどうかを決めるのが遅すぎると思って怒りながら問いかけている。

22. A:　itsumi? itʃani? ha:ku kimire:!
行くか？行かないか？はやく決めろ！
B:　na:, na:, na:... itsuN
もう，もう，もう…　行く。

7　疑問詞＋-ga

疑問詞の nu:「何」，taru「誰」，itʃi「いつ」，ma:「どこ」，Nga「なぜ」，nu:tʃaNtʃi「なぜ」，itʃa「どう」，tʃanu「どの」などが用いられる疑問詞疑問文は，疑問詞疑問文助詞-ga で終わる。疑問詞+-ga による疑問文は，①話し手に不明な情報があるため判断がなりたたず，②聞き手に問いかけることによって疑問の解消をめざすという特徴を両方もつ。

詞動詞・形容詞・コピュラの肯定形につくばあいに，叙述法のマーカー-N の位置にあらわれる。

表 9　疑問詞質問のマーカーga が動詞・形容詞・コピュラについた形。

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
する	suN	suga	tʃaN	tʃaga
来る	tsuN	tsu:ga	tʃaN	tʃaga
買う	ko:juN	ko:juga	ko:taN	ko:taga
起きる	ukijuN	ukijuga	ukitaN	ukitaga
高い	takahaN	takaha:ga	takaha:taN	takaha:taga
コピュラ１	re:ru	×	re:taru	×
コピュラ２	jaN/jeN	jaga/je:ga	jataN/je:taN	jataga/je:taga

否定形に ga がつくばあいは，否定形の後ろにつく。

saN「しない」➔　saN=ga
neN「ない」➔　neN=ga
araN「ではない」➔　araN=ga

第 2 形容詞が述語になる文と名詞述語文のばあいは，コピュラがつかず，-ga が直接述語につくこともできる。次の用例では，第 2 形容詞 maʃi「まし・良い」が述語になっているが，-ga が直接述語についている。

23. A:　<ko:hi:>=tu saNpiNtʃa a:higa, nu:=ga maʃi=ga?
　　コーヒーとさんぴん茶があるけど，何がいいのか？
　B:　saNpiNtʃa kuriba
　　さんぴん茶をくれ。

次の用例では，A が B の行き先を問いかけている。

24. A:　ma:=katʃi　itsuga?
　　どこへ　行くか？
　B:　haru=katʃi　itsuN=ro:
　　畑へ　行くよ。

次の用例では，A が B と C にどうするかをといかけたところ，B が C に食べるかどうか問いかけている。

25. A:　tibitʃi　ti:tʃi　nukuto:higa,　itʃa　suga?
　　豚足　1 つ　残っているが，どう　するか？
　B:　Ndʒi?　tibitʃi　kamiN=na?
　　どう？　豚足　食べるか？
　C:　o:...
　　おっ…

疑問詞が複数をあらわすばあいは，nu:nu:「何々」，tarutaru「誰々」，ma:ma:「どこどこ」のように重複形をとる。次の用例では，A が B にゲートボールに誰が来ていたかを問いかけている。ゲートボールがそもそも複数の人がするスポーツであるため，tarutaru「誰々」という重複形の疑問詞が用いられている。

26. A:　<ge:tobo:ru>=ja tarutaru tʃo:taga?
　　ゲートボールは，誰々が来ていたか？
　B:　taro:=tu dʒiro:=tu saburo:=ga tʃo:tan=ro:
　　太郎と次郎と三郎が来ていたよ。

疑問詞があらわしている不明な情報が 2 つの選択肢をあらわすばあい，疑問詞に主題助詞 ja がつくことが多い。詳細は，今後の課題とされたい。次の用例では，A が B にトマトと苦瓜の中の 1 つを選ばせようとして問いかけている。nu:「何」に主題助詞 ja がついている。

27. A:　<tomato>=tu　go:ja:=ja,　nu:=ja　maʃi=ga?
　　トマトと苦瓜は，何が良いか？
　B:　go:ja:=ru　maʃi
　　苦瓜が良い。

次の用例では，B がどこにいくかは，前にまだ決まっておらず，いくつかの場所に行く可能性があり，そのうちに結局どこへ行ったかが A にとって不明であるため，A が B にどこに行くかを問いかけている。いくつかの選択肢がある。

28. A:　ma:=ja　Ndzaga?
　　どこに行ったのか？
　B:　niʃimi=katʃi=ru　NdzaN=ro:
　　西銘に行った。

８　疑問詞 Nga＋-ru

疑問詞 Nga「なぜ」＋動詞・第 1 形容詞・コピュラの-ru 強調形は，修辞疑問をあらわす構造であり，話し手が聞き手に問いかけているが，話し手には，不明な点がなく，聞き手に回答を求めるわけでもない。①は，ないが，②は，ある。話し手が話題になる人物の行為や態度を非難するばあいに用いられる。

次の用例では，A が味噌を作り，その味噌をいろいろな人に配るが，B は，A が年をとっているのになぜそうするのかを非難している。

29. A:　ɸusuku=Nru je:ne:, mata tsukujuN=ro:
　　不足なら，また作るよ。
　B:　Nga ɸusuku jaru?!
　　なぜ不足か？！
　A:　ma:Nkui=ni ha:dzakutu.

どこもかも配ったから。

B: Nga aNtʃi ma:Nkui=ni hadzuru?!
なぜ，そんなに，どこもかも配るか？！
A: hadzu=ru suru! nu: suga? aNtʃi...
配るんだよ。何をするか？そして…
najunu je:ka nu:Nkui saine: =ja:, ro:mu...
できる間，何もかもしないとね，呆け…

次の用例では，A と B がマイナンバーの話をしている。A が B にマイナンバーの申請をしばらくしないほうがよいと言っているが，B がすでに申請したと言ったところ，A がなぜそれをしたかを問いかけて B が申請したことを非難している。

30. A: <mainaNba:> <ʃibaraku> sa:he: maʃi=ro:
マイナンバー，しばらくしないほうがいいよ。
B: na: ʈʃeN=jo:
もうしたよ。
A: haNmajo:! Nga uri suru?!
あらまあ！ なんでそれをする？！
B: aNtʃi itʃi=mari=tʃaNtʃi sattoN=ro:
そう，いつまでとされている【＝書かれている】よ。
B: Nga?! ʃimi=ru suru!
なんで？！いいんだよ！

次の用例は，A が昼食をした直後，B のうちに遊びに来ている場面である。昼食したばかりなのに B が A にご飯を出そうとしたところ，A が B になぜご飯をだすかとといかけることによって B の行為を非難している。

31. A: Nga muttu <gohaN> Ndʒaɸuru?!
なんで全部ご飯を出すか？！
B: hĩN?
ん？
A: Nga nu:Nkui Ndʒatʃi, <owaN> Ndʒaɸuru?!
なんで何もかも出してお椀を出すか？！
B: ...

９　疑問詞＋-N

-N で終わる疑問詞疑問文は，不明な情報は，あるが，相手に問いかける機能がないことから「判断不明」をあらわす疑いの疑問と言って良かろう。疑問詞+-N は，話し手がその命題に対し，まった

く見当がつかず，聞き手も見当がつかないだろうと思うばあいに用いられる。-gaja:による疑いの疑問詞疑問との違いは，話し手がその疑問に対しては，解消の仕様がないと思う点にある。

次の用例では，疑問詞+-N による文が 2 つ出ている。A は，「地方創生」という政策を批判している。種子島に年寄りのみを呼び寄せてどうするかという疑問を話に出しているが，その疑問を解消するすべがないだろうと思って 2 行目で疑問詞+-N 構造を用いている。5 行目でも疑問詞+-N が用いられている。A は，「地方創生」で人口を増やすことを批判し，人口のみ増やすとどうするかという疑問を話に出しており，その疑問を解消する期待もないため，疑問詞+-N を用いている。

32. 1 A: aNtʃi, ari, nama, <hora> <tʃiho:so:se:>=tʃaNtʃi =ja:,
そして，あれ，今，ほら，地方創生とね，
2 ama, anu:, <tanegaʃima>=ga aNtʃi tusui=gatʃa: jubijuʃiti itʃa suN?
あそこ，あのぉ，種子島がそんなに年寄りだけ呼び寄せてどうする？
3 B: aNsukutu.
そうだよね。
4 A: <dʒiNko:>=ga uɸuku najunu hadʒi je:je: suhiga,
人口が多くなるはずではあるけど，
5 <dʒiNko:>=gatʃa: ɸujatʃaNte: nu: suN?
人口だけ増やしても何する？
6 wakaha:nu tʃo: uraine:...
若い人はいなければ…
7 B: tusui=gatʃa: naine:...
年寄りだけになれば…

次の用例では，A がすべての仕事をロボットがすることを懸念している上での会話である。ロボットが全部するようになることが望ましくないと考え，そうなるとどうするかを問題として話に出している。その疑問を B との会話によって解消するすべがないため，疑問詞+-N を用いている。

33. A: ʃiguto: muttu <robotto>=ga tʃi neN naine: itʃa suN?
仕事は，全部ロボットがしてしまうようになったらどうする？
nama ʃigutu=ga aNtʃi <hoteru>=ro: =ja:
今仕事が，そして，ホテルもね。
B: iN.
うん。
A: muttu <robotto>=ga suN=tʃaNtʃi tʃo:he:=ja:
全部ロボットがすると言っているんじゃないか？
B: iN.
うん。

10 -N

-Nは，動詞・第1形容詞・コピュラの最後につく。-Nで終わる分は，主に平叙文であるが，問い返しに属する意味合いをあらわすばあいもある。-Nであらわす問い返しは，話し手が，聞き手がその話題についてもう少し話してほしいときや，または，終わりそうな話題にとりもどそうとするときなどに用いられる。そのため，疑問文の決定的な特徴のうち，①は，ないが，②は，ある。

次の用例では，AとBが眠れないときどうするかという話をしている。AもBも算数の問題を作って眠ろうとすると言っているが，Aが，Bもそのような方法を使用することを知ったところ，「あなともやっている？」と問い返すことによってBに話を続けさせようとしている。

34. A: niNraraine: =ja:, rukkuru <moNdai> tsukuti =jo:,
眠れなかったらね，自分で問題を作ってね，
<hatʃi tasu naN=wa, kju: tasu naN=wa>...
8足す何は，9足す何は...
mata <kakedzaN>=<toka> tʃai =jo:, na: aN tʃe:tsuN.
また掛け算とかしたりね，もうそうしている。
B: waN=te: hja:ku=kara <hatʃi> hitʃai,
私も100から8をひいたり，
<ʃitʃi> hitʃai, <doNdoN> <doNdoN>...
7をひいたり，どんどん，どんどん...
A: ja:=ro: tʃe:tsuN?
あんたもやっている？
B: wano: Nkaʃi=kara niNranu: jasse:.
私は，昔から眠らない人さ。
A: iN. iN.
うん。うん。

-Nによる問い返しは，必ずその直前言ったことに対する問い返しではなく，かなりの間をおいてから問い返すばあいもある。次の用例では，AとBが旅行の話をしているが，会話の中の1分ほど前の時点でBがハワイに行かなかったという話をしたが，Aがその約1分後にその話をとりもどそうとしている。

35. A: <hawai>=ja itʃana:taN?
ハワイは，行かなかった？
B: <taiwaN> NdzaN=ro:.
台湾，行ったよ。
A: <hawai> =jo:!
ハワイよ！
B: <hawai>=ja itʃaN =jo:.
ハワイや行かないよ。

A:　haNma=jo:! <hawai>=ja <midokoro> maNri=jo:,
あらまあ！ハワイは，見どころ，多くてね，
munu=ga=ru ma:ko: neNru.
食べ物がおいしくないのよ。

次の用例では，A が豆腐を買いに行くことを面倒くさがっている。いつも隣近所から豆腐をもらっている B が A に豆腐を買うのかを問い返している。買うことが疑問のフォーカスとなっており，フォーカス助詞 ru が ko:juN「買う」の連用形についており，suN「する」が-N 形をとっている。平叙文であれば，-N 形がフォーカス助詞 ru と共起せず，-ru 強調形をとるが，-ru 強調形には，問い返しという用法がないため，このようなばあい，-N 形が用いられる。

36. A:　to:ho: ko:iga itsuhi kaʃimahanu itʃiju:saN.
豆腐は，買いに行くのが面倒くさくて行けない。
naNdʒi janu muN. na:.
難儀だもん。もう。
B:　ko:i=ru suN?
買うのか？
A:　aNtʃi　ko:i=ru suru!
そう，買うんだよ。
taru=ga kujuga?
誰がくれるのか？
B:　aN=ro:=ja:.
【私には】あるよね。
A:　kuriba, rehe:!
ちょうだい，どれ！

11　he:

問い返し助詞 he:は，久米島の東部を代表することばと言って良い。肯否疑問文としての用法と疑問詞と共起する疑問文としての用法があり，このセクションで両方考察する。

肯否疑問は，問い返し（英語：echo-question）に用いられる。相手の発話が先行する。相手の発話が聞き取りにくかったり，ついていきにくかったりした際に，話し手が相手の発話の一部分を繰り返していうばあいに用いられる。動詞・第 1 形容詞・コピュラが問い返しの対象となるばあいに，he:が相手の発話の中にあらわれた語形につく。

次の用例では，B が A に「手紙を書いている」と言ったところ，B が A の発言をそのまま繰り返し，he:をつけて問い返ししている。

37. A:　nu: tʃe:tsuga?
何をしているか？

B: <tegami> katʃe:tsuN
手紙を書いている。

A: <tegami> katʃe:tsuN =he:?
手紙を書いている？

B: iN
うん。

次の用例では，A がフランスに行きたいと述べたところ，B が「フランス」というところのみ問い返してる。

38. A: itʃibusa:he: <ɸuraNsu>
行きたいのは，フランス。

B: <ɸuraNsu>=he:?
フランス？

A: <hiko:kitʃiN> <dʒu:maN> su-gaja:?
飛行機賃 10 万するかな？

次の用例では，A は B が買ったフックがスーパーにもあったと言い，B が「何？」と聞いたところ，A が指でフックを指す。そこで，B がフックのことかどうかを A に確認した上でスーパーにあったかを he:で問い返している。この用例にあらわれている<ɸukku>=na:?「フックか？」でしめしたように問い返しの対象が相手の発話にない物事であるばあいは，he:より na:が用いられる。

39. A <su:pa:>=ni:=ro: ataN=ro:
スーパーにもあったよ。

B nu:?
何？

A uri
それ。

B <ɸukku>=na:?
フック？

A iN. su:pa:=ni ataN=he:?
うん。スーパーにあった？

次の用例では，A が B に B の作った天ぷらがレストランよりおいしいともう 1 人から聞き，それを B に伝達する。その際，B が tʃoN「言っている」というところを問い返している。

40. A: <resutoraN>=jaka ma:haN =tʃoN =ro:
［あなたの料理が］レストランよりおいしいと言っているよ。

B: tʃoN=he:?
［そう］言っている？

A: iN. jaru: <teNpura>
うん。あなたの天ぷら。

he:が疑問詞疑問と共起するばあいは，知っているべきとされる情報についていけないことをあらわす。nu:「何」と共起するばあい，誰か呼ばれるときに用いる応答詞としての使用もある。

次の用例は，遠いところから呼ばれている際に用いる応答詞としての he:の用法である。祖母である A が孫である B を遠いところから呼んでいる。

41. A:　taru:!
　　太郎！
　B:　nu: jabiN=he:?
　　何ですか？
　A:　kuma=katʃi kuba
　　ここに来い。

同年代か年下の人に呼ばれるばあいは，コピュラの丁寧形 jabiN「でございます」を用いず，nu:=he:という形で用いられる。

次の用例では，B が A の話が聞こえなくて，ついていけないため，その「ついていけいない」内容に対する疑問視疑問を he:で問いかけている。

42. A:　kinu:=nu hanaʃi ratiN umusa:taN=tʃo:-he:.
　　昨日の話，とても面白かったそうだよ。
　B:　nu: tʃoN=he:?
　　何と？
　A:　kinu:=nu jaru: hanaʃi,
　　昨日のあなたの話，
　　jaru:-ta: hanaʃi, ratiN umusa:taN=tʃo:he:.
　　あなたたちの話，とても面白かったそうだよ。

12　-raja:

-raja:は，聞き手が当然，認めるだろうと考えられることを問いかける確認要求の疑問文に用いられる。崎原（2016：2）は，沖縄語首里方言における-raja:の用法を確認要求のうちの「命題確認の要求」とする。命題確認というのは，「話し手に命題の知識がないか，話し手は命題の真偽に対して不確かである聞き手側に命題の知識があるので，聞き手に問いかけて聞き手に不確かな事を確実にしてもらう」とのことである。これが沖縄語泊・謝名堂方言における-raja:の用法にも当てはまる。

かりまた・島袋（2007：6）では，沖縄語諸方言の-ra 形を「推量の形」とよび，日本語の「だろう」を述語に持つ文が「おしはかり」から「念おし」（＝確認要求）へと移行する過程が，沖縄語今帰仁村謝名方言で用いられる「念おしたずね形」-ra 形と「kuse:推量形」-ra 形に相関関係があることを指摘している。現在沖縄語久米島泊・謝名堂方言では，-ra 形が，上に述べた ga...-ra 構造として疑いをあらわすのに対して，フォーカス助詞 ga がなく終助詞 ja:がついた形では，確認要求のみをあらわすようになっている。

次の用例では，Aが，おいしそうに一緒に食べているBに問いかけている。Bは，一人で住んでおり，いつも一人で食べるため，人と一緒に食べるほうがおいしいのではないかとAが考えた上での問いである。

43. A: ru:tsui kamihi=jakaN maʃi jara=ja:?
一人で食べるよりは，ましだろう？
B: iN.
うん。

次の用例では，AとBとCが久米島の比屋定方言で用いられるna:という人称代名詞の意味について話している。Aは，na:が二人称のみならず再起代名詞（＝反照代名詞）のような用法で一人称をあらわすばあいもあるだろうと確認している。

44. A: “na:” =tʃo:he: “ja:” re:saN?
「ナー」 というのは，「ヤー」（あなた） じゃない？
B: N.
うん。
A: “na:=ga aNtʃakutu” =ja “waN=ga” tʃo:nu tutʃi=ro: aN=ro:
「ナーが 言ったから」は， 「私が」というときもあるよ。
C: “ru:=tʃi suha” =tʃo:hi=ro:
「自分でするわ」というのも…
A: “na:=ga suha”... je:ra=ja:?
「ナーが するわ」… だろう？
B: N
うん。

次の用例では，Aが，Bが作った料理がおいしいと言い，Bもおいしいと思って，確認して問い返している。

45. A: ma:ha:biN=ja:
おいしいですね。
B: ma:ha:raja:?
おいしいだろう？
A: u:
はい

-raja:による確認要求の疑問文においてフォーカス化がおこるばあい，フォーカス助詞ruが用いられる。

A: <kajo:bi> aranoi, <suijo:bi>=ni=ru tsu:ra=ja:?
火曜日じゃなくて，水曜日に来るんだろう？

B:　iN
うん。

13　-heːjaː

-he:ja:の用法は，いわゆる知識確認であり，確認要求に属する。話し手は，話し手が確信を持っていることが聞き手も既知であると考え，聞き手が今の話についてこられるかどうかを確認する言い方である。

-he:ja:は，動詞・第 1 形容詞・コピュラの肯定形の尾略形につく。動詞・第 1 形容詞・コピュラの直説法をあらわす-N の位置にあらわれる-he:に終助詞 ja:がついた結果であると思われる。-he:は，気づき・発見という意味合いをあらわす。語源は，名詞化辞-hi と主題助詞 ja が融合した形に由来すると思われる。は，同じ北琉球語群に属する喜界語上嘉鉄方言にも名詞化辞と主題助詞の融合に語源をもつ文末辞-so:がある。Rieser＆Shirata（2014）によると，その文法化が日本語のジャンが減ってきたプロセスと似ているとのことである。沖縄語の-he:も同じようなプロセスで文法化したと思われる。Rieser＆Shirata の理論を沖縄語泊・謝名堂方言に当てはめると，次のとおりになる。

-he:	araN=na	→	-he:	~~araN=na~~	→	-he:
名詞化辞＋は	でないか			消除		

このプロセスの詳細は，Rieser＆Shirata を参考されたい。

-he:ja:形式の形態論的な特徴は，下の表のとおりである。コピュラ 2 は，jaN と jeN があり，前者は，-he:ja:形式が jasse:ja:で特徴的である。これは，よそのことばの影響でできたものであるためであると思われる。沖縄語首里方言でも久米島の西部で話されている諸方言でも-he:ja:形式に相当するのは，-se:ja:，または，-ʃe:ja:であるため，jaN というコピュラ形式とともにその語形を借用したと思われる[5]。

表 10　肯定形の肯否疑問形。

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
する	suN	suhe:ja:	tʃaN	tʃahe:ja:
来る	tsuN	tsu:he:ja:	tʃaN	tʃahe:ja:
買う	ko:juN	ko:juhe:ja:	ko:taN	ko:tahe:ja:
起きる	ukijuN	ukijuhe:ja:	ukitaN	ukitahe:ja:
飲む	numiN	numihe:ja:	nuraN	nurahe:ja:
高い	takahaN	takaha:he:ja:	takaha:taN	takaha:tahe:ja:
コピュラ 1	re:ru	re:he:ja:	re:taru	re:tahe:ja:

5 謝名堂方言の逆説をあらわす-higa や終助詞-ha もよそでは，-ʃiga や-sa になるが，jaN 形式だけは，jaʃiga や jasa になる。

コピュラ２	jaN/jeN	jasse:ja: /*je:he:ja:	jataN/je:taN	jatasse:ja: /je:tahe:ja:

*ほとんど用いられない形式である。

表 11　否定形の肯否疑問形。

	非過去形		過去形	
	断定	肯否疑問	断定	肯否疑問
しない	saN	sa:he:ja:	sana:taN	sana:tahe:ja:
来ない	kuN	ku:he:ja:	ku:na:taN	ku:na:tahe:ja:
買わない	ko:raN	ko:ra:he:ja:	ko:rana:taN	ko:rana:tahe:ja:
起きない	ukiraN	ukira:he:ja:	ukirana:taN	ukirana:tahe:ja:
飲まない	numaN	numa:he:ja:	numana:taN	numana:tahe:ja:
高くない	takaku neN	takaku ne:he:ja:	takaku ne:na:taN	takaku ne:na:tahe:ja:
でない	araN	ara:he:ja:	arana:taN	arana:tahe:ja:

話し手は，話し手が確信を持っていることが聞き手も既知であると考え，聞き手が今の話についてこられるかどうかを確認する言い方である。

次の用例では，A が B に日本語の「どういたしまして」のような言い方が沖縄語で何というかを問いかけているが，その前に A が B に「どういたしまして」の話しをしていることについてこれているかどうかをアンダーラインされているところで確認している。下の用例の文字では，見られないが，そう言われたところ，B が頷き，A が話を続けている。

46. A:　jamato: <do: itaʃimaʃite> =tʃo:he:=ja:?
日本本土は，どういたしましてというのではないか？
uri <do: itaʃimaʃite>=tʃo:he: utʃina:gutʃi=tʃi nu:=tʃaNtʃi ajugaja:?
そのどういたしましてというのは，沖縄語で何というかな？
mihe: de:biru =tʃaNtʃi aine:, jaru: nu:=tʃaNtʃi <heNdʒi> suga?
ありがとうございますと言ったら，あなた何と返事するのか？
B:　hira.
知らない。

次の用例では，A が B に台湾で見た兵隊の話をしている。A が B に兵隊の行進する歩き方を真似し，B がそのような歩き方を知っているかどうかをアンダーラインされているところで確認したところ，B が相槌を打っている。

47. A:　taiwaN=jo:ti　aNtʃi　<he:tai>-ta:=ga...
台湾で，そう，兵隊たちが…
B:　he:...
へえ…
A:　kaNtʃi=ru　suhe:=ja:?

こうするんじゃないか？

B:　N.

うん。

A:　hisa=ro:　rippani　aNtʃi　tʃi,

足も立派にそうして，

uN=ni,　uri,　utta:　<kuNreNdʒo:>=nu　<moN> =jo:,

それに，その，彼らの訓練場の門ね，

kaNtʃi　<moN>=ga　aN=ba:=tiba

こう門があるわけだね。

次の用例では，コピュラが-he:ja:形をとり，-sse:ja:になっている。A が B に比嘉集落にいる年配の女性（Nmi:＝姉）の話をしている。A が B に例の女性が旅行が好きであるということを知っているかどうかをアンダーラインされているところで確認たところ，B が相槌を打っている。

48. A:　higa=nu Nmi:=ru hirumahaN=ro:.

比嘉のお姉さんのほうが珍しいよ。

annusa muttu ubijuN.

あるだけ全部覚える。

B:　he:...

へえ…

A:　annusa muttu.

あるだけ全部。

mata <rjoko:> <suki> jasse:=ja:?

また旅行好きなのではないか？

B:　iN.

うん。

A:　<kurumaisu>=kara=jatiN sunu tsu re:kutu.

車椅子からでもする人だから。

aNsugutu=jo:.

だからね。

B:　hirumahaN=ja:

珍しいね。

14　-je:saNna・-je:saN・-je:sani

-je:saNna・-je:saN・-je:sani は，疑問文の決定的な特徴のうち，①はないが，②はあり，確認要求という用法で用いられる。この 3 つの形式は，ほぼ同じ用法で用いられ，-je:saNna が一番よく用いられるようである。日本語の「ではないか」と同様，-je:saNna の確認要求は，話し手と聞き手が両者知っていることや一般的な知識，伝聞に基づく知識を話の話題にしたり，または，聞き手が忘れているこ

とを思い出させたりする用法と，話し手が聞き手の知っているはずのことを聞き手に気づかせる用法がある。

-je:saNna・-je:saN・-je:sani の語源は，動詞・コピュラの連用形にとりたて助詞 ja がつき，それに suN「する」の否定形 saN ついた形である。-je:saNna のばあいは，それに肯否疑問マーカーna がつき，-je:sani のばあいは，saN「しない」が-mi 形をとった形式である。

aN「ある」連用形：ai+ja → aje: saN「ありわしない」 → ＋疑問助詞 na → aje:saNna
→ -mi 形→aje:sani

コピュラの-je:saN 形は，re:saN であり，この形式は，フォーカス助詞 ru とコピュラ jeN の連用形 je: と je:saN が融合して re:saN になったと思われる。

過去形をあらわす-ta-形に-je:saN 形がつくばあい，-ta-形の尾略形につく。

ko:taN「買った」尾略形 ko:ta- → ko:ta-je:saNna

-je:saNna は，第 1 形容詞につかず，動詞・コピュラの否定形にもつかないため，-je:saNna と同じような意味合をあらわすには，後述する-nu+araNna が用いられる。

ma:ha-nu araNna? 「おいしいのではないか？」
ko:ra-nu araNna? 「買わないのではないか？」
ara-nu araNna?「そうじゃないのではないか？」

形態論的に否定形と同じふるまいを示す neN「ない」は，無情物存在動詞 aN「ある」の否定形の補充形式として機能するが，-je:saNna 形をとることができ，ne:je:saNna「ないんじゃないか」になる。

-je:saN 形は，沖縄語中南部諸方言においてあまねく見られる形式である。尾略形+-sani にリデュースされた形は，首里方言や幸喜方言（かりまた 2016：49）などに見られるが，泊・謝名堂方言では，リデュースされた形式は，見られない。

次の用例では，B が，天ぷらにソースをかけようとしている A に天ぷらにも味がついてることに気づかせようとしている。

49. A: <so:su> tu:ti tsu:ha
ソースをとってくるわ。
B: nu: tu:ti tsuN= he:?
何をとってくるか？
nu:=N kakira:hi=ru maʃi =ro:
何もかけないほうがいいよ。
e! adʒi tʃitʃo:je:saN=na? <ʃioadʒi>=ga.
え！味，ついているんじゃないか？塩味が。
A: uhe:gwa amahaN =ro:
ちょっと甘いよ。
B: i:ji:, ʃimiN =jo:

いや，いいよ。

次の用例では，B があまっている味噌を A にあげると言ったのに，A が味噌を買っったため，B が A にそれを思い出させようとしている。

50. A: misu ko:taN
味噌を買った。
B: misu ko:taN=na:? haNmajo:!
味噌を買ったのか？あらまあ！
amato:hi jaru:=katʃi kujuN=tʃaNtʃi aNtʃaje:saNna?
余っているのをあなたにあげると言ったんじゃないか？

次の用例では，A が第三者に謝名堂方言の人称代名詞が 1 人称をあらわすのか 2 人称をあらわすのかと問われ，2 人称であると考えているが，７歳上である B にその確認をとろうとしている。

51. A: “na:” =tʃo:he: “ja:” re:saN?
「ナー」というのは，「ヤー」（‘あなた‘）じゃない？
B: N.
うん。
A: “na:=ga aNtʃakutu” =ja “waN=ga” tʃo:nu tutʃi=ro: aN=ro:
「ナーが　言ったから」は，　「私が」というときもあるよ。
C: “ru:=tʃi suha” tʃo:hi=ro:
「自分でするわ」というのも…
A: “na:=ga suha”... je:ra=ja:?
「ナーが　するわ」…　だろう？
B: N
うん。

次の用例では，A は，自分の買ったドレッシングが目の前に置いてあるのと同じものであると考えているが，B は，A が買ったのは，調合であることに気づかせようとしている。

52. A: wa:ga ko:te:higa ari <doreʃiNgu> re:higa...
私が買ったのがあのドレッシングだけど...
B: jaru:=ja <tʃo:go:> re:sani?
あなたは，調合じゃないか？
A: kunu ittʃo:hi
この入っているの...
B: N.
うん。
A: inu muN re:ru
同じものだ。
B: uhe: uri <amami> aN

ちょっとそれ，甘味ある。

15 (-nu) araNna?

(-nu) araNna の用法は，確認要求に属し，-jeːsaNna 形と同様，話し手と聞き手が両者知っていることや一般的な知識，伝聞に基づく知識を話の話題にしたり，または，聞き手が忘れていることを思い出させたりする用法と，話し手が聞き手の知っているはずのことを聞き手に気づかせるのに用いられる。

araNna は，コピュラの否定形 araN に肯否疑問助詞 na がついた形である。動詞・第 1 形容詞・コピュラの過去形に araNna がつくばあい，直説法をあらわす-N の形態論的な位置に-nu があらわれる。この-nu で終わる形式が名詞句を飾る連体形と同音形式になっているが，語源が別であると考えられる。[6]

53. A: jaruː, eː=ja :, Ndʒi?
あなた，ね，ほんと？
taroː=tu, dʒiroː=tu mittʃai jeːneː,
太郎と次郎と 3 人だったら
jaru: nuː=N jamatugutʃi sanoi,
あなた，何も日本語を使わないで
muttu utʃinaːgutʃi =tʃoN
全部沖縄語だって。
B: waN=naː?
私？
A: iN
うん
kinuː... ama... <suːpaː>=joːti juNtaku tʃanu araN=na?
昨日...あそこ...スーパーでおしゃべりしたのではないか？
B: iN.
うん。
A: jaruː, e! nuːN jamatugutʃi madʒiriranoi,
あなた，えっ！何も日本語を混じれないで，
muttu utʃinaːgutʃi =tʃoN.
全部沖縄語だと。

次の用例では，A と B と C が畳に座っているが，A は，外国人である C が畳に座ることに慣れていないと心配している。A は，C が畳に座ったことがなく，座り心地が悪いため，隣の部屋のいすに移

6 −nu araNna の語源は，連体形+araNna とは，ことなると思われる。叙述法をあらわす−N+とりたて助詞 ja+コピュラの否定形 araN に肯否疑問助詞 na がつき，−noː araNna になり，その語形が−nu araNna にリデュースされたと思われる。

動したほうがよいと考え，B に C が畳に座ったことがないことに気づかせようとしている。そう言われて，B は，C の気持ちが分からないため，その質問を C にパスしている。

54. A: tataN=ne: itʃe: NraN-kutu, ama=ru mase: araN=na?
畳には，座ったことがないから，あそこのほうがましではないか？
B: nu:=he:?
何？
A: tataN=ni=ja itʃe: Nra-nu araN=na?
畳には，座ったことがないのではないか？
B: （C に向かって）Ndʒi?
どう？

16 -gaja:

-gaja:による疑問文は，不明な情報があることをあらわすが，聞き手に問いかける機能がない，疑いの疑問文に用いられる。宮崎 et al.（2002）によると，疑いの疑問文に独話的な用法と対話的な用法がある。独話的な用法は，次の 3 つの用法がある。〈判断不明〉，〈思考過程〉，〈疑念〉である。対話的な用法は，〈応答を強制しない質問〉と〈聞き手への配慮をあらわす質問＞がある。〈聞き手への配慮をあらわす質問〉という用法は，謝名堂方言には，見られないが，そのほかの用法は，すべて-gaja:であらわされる。

-gaja:は，疑問詞疑問のマーカーがに終助詞 ja:がくわわってできたが，-gaja:に終助詞 ja:がつくことがあることから，共時的に-ga+-ja:として分析できないことが分かる。次の用例では，-gaja:に ja:がついている。A と B は，台湾の兵隊が微動だにせずに一日中立つという話をしており，A の質問の対象となる兵隊が第三者であるため，B が応答を知っているという想定が成り立ちにくいため，-na より-gaja:が用いられている。これは，〈応答を強制しない＞という用法である。

55. A: ikana <kjo:iku> sattoN=tʃaNte: aN tʃi=Nte: maruhittʃi:...
いくら教育されていると言ってもそうしても一日中
B: Ntʃi=ro: sanoi, tʃa: kaNtʃi...
見てもしないで，ずっとこう...
A: <ko:tai> sugaja:=ja:?
交代するかな？
B: hĩN?
ん？
A: <ko:tai> sugaja:?
交代するかな？
B: hira.
知らない。

次の用例では，A が B に第三者が自分の島のことばができるかを問うている。B には，第三者のことが分からない想定をしているため，-gaja:が用いられている。

56. A: uri=ga ʃima=nu kutuba wakaje: sugaja:?
彼の島のことば，分かりはするかな？

B: hira.
知らない。

次の用例は，独話的な用法のうちの〈思考過程〉という用法の用例である。

57. A: watta:=ro: <ho:geNɸuda> ataN=ro:
私たちも方言札があったよ。
B: watta:=ro: ata-gaja:? ne:na:ta-gaja:?
私たちもあったのかな？なかったのかな？

17 ga...-ra

この ga...-ra 構造には，3 つの機能・用法がある。①一番基本的な用法は，疑いの疑問文としての用法である。②埋め込み疑問文としての用法である。③因果関係の不確定を提示する原因・理由節としての用法である[7]。本稿では，①のみを検討する。 疑いの疑問のさまざまな用法のうち，主に独話的な用法で用いられる。対話的な用法は，話者の内省によると，可能ではあるとのことであるが，自然談話に一例も出なかった。

動詞・第 1 形容詞・コピュラが-ra 形をとることばできる。かりまた（2015：84-91）によると，琉球諸語のもっとも古い姿が記録された『おもろさうし』の言語における-ra 形が推量をあらわす。かりまた・島袋（2007：6）によると，現代北沖縄語語における-ra 形には，推量という用法自体がないが，推量から派生した用法は，確認要求の-raja: と疑いの疑問の ga...-ra 構造で 2 つがある。疑いの疑問文専用フォーカス助詞 ga と共起するばあいは，疑いの疑問をあらわし，フォーカス助詞 ga がなく，終助詞 ja:と-raja:のようにつくばあいは，確認要求をあらわす。

ga...-ra 構造においては，ga が疑問の焦点があたる構成素につく。疑問詞疑問文のばあいは，疑問詞がいつも疑問の焦点になるため，ga が疑問詞，あるいは，疑問詞に修飾される句につく。

58. unu ɸune: na:ha=kara=ga tʃa-ra =ja:?
その船は，那覇から来たのだろうか？

59. unu <ko:tʃo:>, hanaʃi=ga umusa:taN =ro:. nu:=ga tʃo:ra =ja:?
その校長，話が面白かった。何をしているのだろうか？
utusata ne:higa...

7 ga…-ra 構造が北琉球語群のうちに，沖永良部島以南にあまねく見られ，上に述べた 3 つの用法は，沖縄中南部意外に沖永良部にも確認されている。

音沙汰がないけど...

60. uNtsu=ga=ga <haNniN> jara =ja:?
その人が犯人なのだろうか？

動詞述語や第 1 形容詞述語がフォーカスの対象になるばあいは，ga が述語ににつく。動詞のばあいは，動詞の連用形に ga がつき，suN「する」にテンスがあらわれ，-ra 形をとる。第 1 形容詞のばあいは，-ha/-sa 連用形に ga がつき，無情物存在動詞 aN「ある」にテンスがあらわれ，-ra 形をとる。

表 12　動詞述語と第 1 形容詞述語がフォーカスの対象になる ga. . . -ra 構造。

	非過去		過去	
	普通形	述語に ga フォーカス	普通形	述語に ga フォーカス
書く	katʃuN	katʃi=ga sura	katʃaN	katʃi=ga tʃara
おいしい	ma:haN	ma:ha=ga a:ra	ma:ha:taN	ma:ha=ga atara

否定述語が ga によるフォーカスの対象となるばあいは，ga が否定形に直接つき，無情物存在動詞 aN「ある」にテンスがあらわれ，-ra 形をとる。

表 13　動詞と第 1 形容詞の否定述語がフォーカスの対象になる ga. . . -ra 構造。

	非過去		過去	
	普通形	述語に ga フォーカス	普通形	述語に ga フォーカス
書かない	kakaN	kakaN=ga a:ra	kakana:taN	kakaN=ga atara
おいしくない	ma:ko: neN	ma:ko: neN=ga a:ra	ma:ko: ne:na:taN	ma:ko: neN=ga atara

名詞・第 2 形容詞が述語になる文においてフォーカス助詞 ga がコピュラの-ra 形 jara/je:ra と隣になっているばあい，ga とコピュラが融合する。

どこなのだろう？　ma:=ga je:ra　→　ma:=ge:ra
どこだったのだろう？　ma:=ga je:tara　→　ma:=ge:tara

18　-gasura

もう 1 つの疑いの疑問をあらわす手段は，疑問助詞-gasura である。-gasura は，ga/-ra 構造の再分析によってできた，新しい形式であると考えられる。-gasura が終助詞として再分析されたことには，3 つの要因があると思われる。

① 動詞の一部では，-gasura が尾略形につくように見える。
② 疑問助詞による形式が多いため，そのような疑問助詞と類推がおこりやすい。
③ 話者は，みな沖縄語と日本語を使い分けて生活する 2 言語併用話者であり，同じ話者が話す 2 つの言語に構造収斂（structural convergence）がおこる。沖縄語の影響を受けたウチナーヤマ

トゥグチという日本語の変種ができたのと同様，日本語と沖縄語の 2 言語併用話者の沖縄語に日本語の影響を受けた形も少なくない。

動詞・第 1 形容詞の終止形は，-N でおわる。この-N がとられた形式を尾略形とよぶことにする。疑問詞疑問助詞 ga と疑いの疑問助詞 gaja:は，フォーカス助詞 ga とことなり，尾略形につくが，次の表で示しているように，-miN，-biN，-niN でおわる動詞では，非過去形の尾略形が連用形と同音形式になる。

表 14　-gasura の成立。

		尾略形+ga	尾略形+gaja:	連用形+助詞 ga＋suN「する」の-ra 形
尾略形と連用形が同音形式である動詞	jumiN 読む	nu: jumiga 何を読むか？	jumigaja: 読むかな？	jumiga sura 読むのだろうか？
	jubiN 呼ぶ	taru jubiga 誰を呼ぶか？	jubigaja: 呼ぶかな？	jubiga sura 呼ぶのだろうか？
	ʃiniN 死ぬ	Nga ʃiniga なぜ死ぬか？	ʃinigaja: 死ぬかな？	ʃiniga sura 死ぬのだろうか？
尾略形と連用形が同音形式でない動詞	katsuN 書く	nu: katsuga 何を書くか？	katsugaja: 書くかな？	katʃiga sura 書くのだろうか？
	ko:juN 買う	nu: ko:juga 何を買うか？	ko:jugaja: 買うかな？	ko:iga sura 買うのだろうか？
	wi:dzuN 泳ぐ	Nga wi:dzuga なぜ泳ぐか？	wi:dzugaja: 泳ぐかな？	wi:dʒiga sura 泳ぐのだろうか?

尾略形につく疑問助詞があることと，-miN，-biN，-niN でおわる動詞で尾略形と連用形が同音形式であることで，-ga sura も尾略形につくというように，再分析され，ほかの動詞まで広まったただろう。次のとおりである。

尾略形	連用形			尾略形
jumigaja:	jumiga sura	再分析	→	jumiga sura
katsugaja:	katʃiga sura	再分析	→	katsuga sura

疑いの疑問文におけるフォーカス助詞 ga と，疑いの疑問文以外の文において似ている文法的な役割を果たすフォーカス助詞 ru も，動詞につくばあい，連用形より尾略形につくようになった。

さらに，非過去形以外の形式にも尾略形+ga sura が広がったため，フォーカス助詞 ga+suN「する」の-ra 形という構造が再分析され，尾略形+gasura というように，-gasura が 1 つの疑問助詞になっていると言ってもよかろう。たとえば，動詞の過去形のばあいは，本来の ga/-ra 構造による疑いの疑問形式は，動詞の連用形にフォーカス助詞 ga がつき，suN「する」が過去形 tʃaN「した」をとり，それが-ra 形をとり，tʃara になる。しかし，新しい規則が当てはまり，過去形の尾略形に gasura がつく。

表 15　ga…-ra 構造による古い形式と-gasura による新しい形式。

	古い疑いの疑問形の過去形	過去形	過去形の尾略形	新しい疑いの疑問形の過去形
jumiN「読む」	jumiga tʃara	juraN	jura-	jura-gasura
katsuN「書く」	katʃiga tʃara	katʃaN	katʃa-	katʃa-gasura
ko:juN「買う」	ko:iga tʃara	ko:taN	ko:ta-	ko:ta-gasura

上の表に示している過去形の尾略形+gasura は，疑いの疑問形式の使用も確認されているが，まれである。主に埋め込み疑問文の形式として用いられる。次の用例のとおりである。

61. aNma:=ja unu kwa:se: ko:ta-gasura tsukuta-gasura wakaraN
お母さんは，そのお菓子は，買ったか作ったか分からない。

さらに，-gasura をとった文におけるフォーカスは，フォーカス助詞 ru によるものであることから，もとになる ga/-ra 構造と完全に切り離されたことが分かる。

参考文献

狩俣 繁久・島袋 幸子（2006）「琉球語の終止形 : 沖縄謝名方言と沖縄安慶名方言」『日本東洋文化論集』 no.12　pp.89 -123　琉球大学法文学部
かりまたしげひさ・島袋幸子（2007）「沖縄方言のとりたてのくっつきとかかりむすび : 今帰仁謝名方言と具志川安慶名方言のばあい（おぼえがき）」，『日本東洋文化論集』(13): 1-29
かりまたしげひさ（2015）「オモロ語の動詞終止形—精密なよみをめざして」，琉球アジア文化論集別刷　pp.33-103
かりまたしげひさ（2016）「沖縄名護市幸喜方言の終助詞とモダリティ」『琉球アジア文化論集 : 琉球大学法文学部紀要 (2):11-52
宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃（2002）「モダリティ」仁田，義雄；益岡，隆志；田窪，行則『新日本語文法選書4』東京：くろしお出版
崎原正志（2015）沖縄首里方言のモダリティーー肯否疑問文を中心にー，発表資料
崎原正志（2016）首里方言の確認要求文ー-raja:と-ɕe:(ja:)の文を中心にー，沖縄言語研究センター定例会
日本語記述文法研究会編（2003）「現代日本語文法　4 第 8 部モダリティ」。東京：くろしお出版
Rieser＆Shirata（2014）The nominalizer su and sentence-final soo in
Kikaijima Ryukyuan : Comparison with Japanese no(da) and (no)dewanaika. 京都大学言語学研究＝Kyoto University Linguistic Research. 33: 253-278